

分野別課題の意見集約

(1) 産業・観光

《総論》

- 産業振興を推進し、産業の活性化をまち全体の活性化に結び付けることが大切である。
- 地域間競争に勝ち抜くためには、産学官連携による産業クラスターの形成を促進することが重要である。
- 区内産業の活性化のためには、観光振興を図ることが必要である。

【各委員の意見】

- ・産業の活力こそが区全体の活力を引っ張っていく
- ・産業振興は荒川区の生活全般の基本になる
- ・企業間連携、産学連携、産学官連携等による産業クラスターの推進
- ・つくばエクスプレスの開通によるつくばとの連携推進
- ・地域間競争への対応
- ・大企業ではないが全国シェアが高い企業等を産学連携やつくばとの連携で育成
- ・産学連携のためには、実業界と学者との間に共通の言葉が必要
- ・荒川区の新しい産業として観光に力を入れていくべき
- ・観光はすべてに通じる産業
- ・「住んでよし、訪れてよし」の地域づくり、観光地づくり
- ・産業の活性化のためにはまちづくりの視点も重要
- ・産業の活性化が税収に跳ね返ってくるような地方税体系が必要

《各論》

○ものづくり

- 区内産業を引っ張る企業を育成し、区全体の産業活性化につなげることが大切である。
- 既存の製造業の集積を活かすとともに、産業構造の転換と新産業の育成を図ることが重要である。
- 国、都及び各種調査研究機関等との連携を強化し、区が中小零細企業振興のポータルとなり、個々の企業ニーズにあった支援策を提供することが必要である。

【各委員の意見】

- ・競争力のある企業を盛り立て、関連する企業や産業を引っ張ってもらう
- ・中核企業の育成・誘致により中小企業も生きてくる
- ・全国区で通用している企業に区の人員と能力を集中的に支援することが必要
- ・既存の製造業の集積を大切にす
- ・小規模・零細企業に対する支援
- ・ものづくり産業のIT化
- ・経済産業省や中小企業基盤整備機構等の支援を区でまとめて、個々の企業ニーズに合わせて渡していく
- ・荒川区内の従業員10人以上の工場（約230社）を常時ウォッチし、何が起きているのか把握するくらいの姿勢が必要

○商業

- 大型店と地元商店街とが共存共栄するための方策を検討していく必要がある。

【各委員の意見】

- ・大型店が出店する中、地元商店街をどう振興していくか
- ・大型店と地元商店との共存共栄

○観光振興

- 区内の観光資源を発掘し、有機的なネットワークとして結び付け、区内外に情報発信していくことが重要である。

【各委員の意見】

- ・他に真似のできない観光資源である都電荒川線の活用
- ・隅田川の水上バスの観光資源としての利用可能性
- ・観光資源を時間をかけてつくっていくことが大切
- ・ミニバス等で区内の観光資源をつなぐ
- ・近隣区の観光協会との連携
- ・市民レベルのメディアによる情報発信
- ・区外からの観光客にわかりやすい観光案内等の整備

(2) 街づくり

《総論》

- 荒川らしさを活かしつつ、区内に住む人が誇りを持てるような街づくりを推進することが重要である。
- マンション等の再開発が進み、新たに区内に転入してくる住民が増加する中、新住民の区内定着や新たなコミュニティの形成を図っていくことが必要である。

【各委員の意見】

- ・荒川区を象徴するシンボルが必要、シンボルがなければつくり育てる
- ・地域に活力があるとは、「その地域に住み続けている人たちが、住み続けることに誇りを持っていること」
- ・マンション開発により流入したファミリー世帯をいかに区内に定着させるか
- ・旧住民と新住民との協調性の確保が必要
- ・街づくりには地域コミュニティなどのソフトの部分が重要
- ・障害者・高齢者が自律移動できる街の実現

《各論》

○都市基盤整備

- 交通ネットワークの利便性を活用して、都市基盤の整備を進めることが重要である。

【各委員の意見】

- ・荒川区内にある鉄道駅に交通結節点としてどのような機能を持たせるのか
- ・つくばエクスプレスや日暮里・舎人線等の交通ネットワークの積極的活用
- ・地域の顔を規定しているのはその地域にある街路や道路

○住環境整備

- 災害に強いまちづくりに向けて、ハード面から木造密集地域の解消、ソフト面から地域コミュニティの支援に取り組むことが重要である。
- 下町の風情を残した街並みを活かして、開発と調和のとれた魅力ある街づくりを推進することが必要である。

【各委員の意見】

- ・震災対策としての木造密集地域の解消
- ・木造密集地域の解消に向けた各種補助金の活用
- ・災害時に対処できるコミュニティづくりの支援、誘導
- ・美しい荒川区のまちづくりのための景観等への規制、誘導
- ・落ち着いた景観、街並みの維持

(3) 教育・文化

《総論》

○教育

●学校だけではなく、地域社会全体で教育を支えることが重要である。

【各委員の意見】

- ・学校教育だけではなく地域全体で教育を支える
- ・学校間の学力の格差の拡がり
- ・子どもに対する地域の安全対策が必要
- ・ファミリー層の転入による局地的な学校・幼稚園不足への対応

《各論》

○学校教育

- 子どもの生きる力を育み、個性や能力を十分に発揮して、厳しい社会をたくましく生きられる人材を育成することが大切である。
- 教師の教える力を高め、荒川区の良さや人間が大切にされる教育を進めることが重要である。
- 学校段階から、給食を通じた食育を推進することが必要である。

【各委員の意見】

- ・子どもの生きる力、教師の教える力を養う
- ・マニュアル人間から多様なフィールドワークの体験へ
- ・教員の質の向上
- ・人間が大事にされるような教育
- ・荒川区の良さを教える教育
- ・不登校児対策の推進
- ・学校給食を活用した食育の推進
- ・「必ず朝食を摂る」活動、「早寝早起き朝ごはん」キャンペーンの推進

○生涯学習・スポーツ

●区民の生涯学習・スポーツに対する意欲の向上を支援するため、環境づくりや施設整備を進めることが必要である。

【各委員の意見】

- ・ボランティアによる生涯学習指導の支援
- ・駅周辺へのカルチャー施設の設置
- ・地域的な教育環境の充実のための中央図書館の建設
- ・若い子育て家庭が話し合える場、講座等の開設
- ・スポーツを楽しめる環境づくり、施設整備

《総論》

○文化

●時代にあった文化の継承・振興を進めていくことが重要である。

【各委員の意見】

- ・南千住の再開発に代表されるような新住民による新しい文化の創出
- ・従来からの文化と新しい文化との共存
- ・文化は時代に合わせて形を変え生き残っていく
- ・文化の継承の仕方、補助金ではなく側面からサポートする
- ・文化・芸術基本条例の策定を検討すべき

《各論》

○文化振興

- 地域の伝統工芸や芸術文化の保存・継承を通じて、地域の文化資源の積極的なPR活動を推進することが必要である。
- 国内外との交流を活発にするため、地域文化や自国文化に対する理解を深めることが重要である。

【各委員の意見】

- ・伝統工芸の区民開放
- ・千住大橋など近代遺産の保存
- ・地域の文化の積極的なPR
- ・地域の文化度は博物館に反映される
- ・荒川の文化資源を活かした観光
- ・神社のお祭りや盆踊り、縁日等が文化に慣れ親しむ入り口であり、そういったものを盛り上げていく姿勢が大切
- ・将来の日本を担う子どもたちには自国の文化に精通してほしい
- ・国際的に活躍するために伝統文化やふるさとの文化を教養として身に付けることが必要
- ・文化に対する理解が国内都市や国際都市との交流をより内容の濃いものにする
- ・文化伝承を通じた世代間交流の推進

(4) 子育て・健康・福祉

《総論》

- 生涯健康都市を実現するため、健康であることはすべての基礎となるという認識のもと、自らの健康づくりに対する意識向上を図っていくことが必要である。
- 少子高齢化が進行する中、地域全体で子育てしやすい環境づくりや高齢者が安心して暮らせるまちの実現を目指すことが重要である。

【各委員の意見】

- ・健康であることはすべての基礎となる
- ・「生涯健康都市宣言」のスローガンの明確化、他地域との違いを明確にすることが必要
- ・国の制度に左右されない福祉理念の確立
- ・地域社会全体で子どもを育てていくという視点が重要
- ・家庭から社会へと子育て、介護、福祉の比重を移してゆくことが必要
- ・保育園・幼稚園と高齢者施設との交流プログラムや世代間交流が必要
- ・ボランティア・ヘルパーだけでなく一般区民にも福祉活動への参加を促す

《各論》

○健康づくり

- 健康づくりの重点を、事後対応から事前予防へとシフトさせるとともに、普段からの健康づくりに対する意識を高め、実際の行動に結び付ける取組を推進していくことが必要である。

【各委員の意見】

- ・悪くなる前の予防、健康増進の意識をどう高めていくかという視点が必要
- ・健康に対する自己責任の意識を高めていくことが必要
- ・健康づくりへの意欲向上支援
- ・区民の健康づくりの意識を高めていくことは医療費や介護費の減少につながる
- ・健康問題については、知識の付与だけではなく、行動変容を起こさせる取組が必要
- ・平均寿命が短い原因の究明・対策
- ・健康対策の民間へのアウトソーシング

○子育て支援

- 中心市街地へ保育施設を設置するなど、区の子育て環境をより充実させ、子育て世代にとって住みよいまちにしていけることが重要である。

【各委員の意見】

- ・区の施設の空き部屋を利用し、民間に委託しての一時保育を行う
- ・遊び場の危険度をチェックする必要がある
- ・保育施設を中心市街地に置くことが必要
- ・子どもを育てる親たちの不安解消のため、夜間・緊急相談体制の充実
- ・子どもを持つ事に対する、若い女性への啓発講座をつくる
- ・子どもから大人まで、誰もが参加できる催しを行うことで、子どもたちが高齢者や障害者と触れ合うことで思いやりの心を身につけることができる

○高齢者福祉

- 介護の先進区を目指して、高齢者が暮らしやすいまちの実現を図るとともに、退職後も地域で活躍できる場を提供していくことが必要である。

【各委員の意見】

- ・単身・高齢者のみの世帯での基本的人権・生存権の尊重
- ・介護の先進区を目指すべき
- ・特別養護老人ホーム待機者問題、家族介護のあり方について十分議論していくことが必要がある
- ・介護予防施策の成果検証が必要
- ・専門家としての介護コーディネーターの設置・育成
- ・退職後も社会参加できる仕組みづくり
- ・団塊世代のエネルギーを世代間交流の中で活用していくことも必要

○障害者福祉

- 障害者が自立した生活を送ることができるよう、就労の機会の確保を図っていくことが必要である。

【各委員の意見】

- ・本来、仕事の部分を充実させて、障害者の方でも一定の収入が得られるようになったら一定の負担をしていただくというのが本来の制度のあり方である
- ・親亡き後のフォローをどうしていくのかが将来的に大きな問題になる

(5) 環境

《総論》

○環境

●環境先進都市の実現に向けて、区民や事業者等との協働により、地球温暖化・ヒートアイランド対策や地域における生活環境の保全、環境美化の推進等を実行に移していくことが重要である。

【各委員の意見】

- ・環境対策は豊かで便利に暮らしている区民に不自由を強いることにもなる
- ・NPO等のボランティア組織の環境問題に対する役割
- ・環境に配慮した路面電車等の活用
- ・行政だけでなく、区民との協働が必要
- ・下町のコミュニティを活かした環境問題に対する取組
- ・地球環境を考えるには、まず身近な環境問題に取り組むことが大切
- ・環境教育の必要性和実践行動
- ・蝶々など身近な自然と触れ合う機会から、命の大切さを学ぶことができる
- ・環境問題は健康問題とつながっている

《各論》

○地球温暖化・ヒートアイランド対策

●地域のコミュニティを活かし、様々な角度から地球温暖化・ヒートアイランド対策を進めていくことが必要である。

【各委員の意見】

- ・地球温暖化・ヒートアイランド対策は、防災・コミュニティ対策でもある
- ・平面図で捉えた屋上緑化に加え、立面図で壁面緑化可能面積をカウントすることで、蒸散効果の高い街づくりを進める
- ・区のコミュニティを活かした街並み緑化や「打ち水作戦」などの「区民力によるクールアイランド作戦」
- ・木遣い文化運動によるCO₂の都市域での固定による地球温暖化防止
- ・ヒートアイランド対策に有効とされる遮熱性舗装は、通常の道路舗装よりもコスト高であり、区の姿勢が問われる
- ・緑を増やす環境基金の設置

○資源循環型社会

●太陽電池などの新たな環境保全の取組を進めるとともに、環境ビジネスの視点から、区内に集積する再生資源業界の振興を図ることが必要である。

【各委員の意見】

- ・ごみを再生可能資源として捉える
- ・ごみゼロ社会、循環型社会の具体化
- ・太陽電池の実用実験
- ・風力発電の検討
- ・環境ビジネスの視点
- ・地場産業としての再生資源業界の集積

○環境美化

●緑化の推進や電柱の地中化など、環境に配慮した美しいまちづくりを進めることが必要である。

【各委員の意見】

- ・植木鉢を家や路地に置くなど、下町らしい緑化の推進
- ・電信柱の地中化による美観の形成
- ・景観の向上を観光につなげる
- ・美しい路地は観光名所にもなる
- ・「都電とバラ」につながるものをつくる
- ・歩行喫煙禁止等の規制手法の検討

(6) 防災・防犯・コミュニティ

《総論》

○防災・防犯・コミュニティ

- 地域コミュニティが機能しているという荒川区の強みを最大限活かして、防災・防犯対策に取り組んでいくことが重要である。

【各委員の意見】

- ・防災・防犯にはコミュニティづくりが大切
- ・コミュニティが機能することが荒川区の強み
- ・災害弱者への対応

《各論》

○防災

- 減災を視野に入れたまちづくりを進めるとともに、関係機関との連携強化を図ることが重要である。

【各委員の意見】

- ・荒川区に存在する建築物が現在の耐震基準でどの程度クリアできているのか調査する必要がある
- ・耐震基準をクリアできていない建築物に対してどのような手を打つか検討する必要がある
- ・木造密集地域での延焼を止めるためには、幅員の広い道路の整備が必要
- ・不接道宅地対策の推進
- ・警察・消防・自衛隊との連携強化が必要
- ・震災が起きたときの人口密集地域の道路規制、避難場所の問題
- ・震災時の食料・水など栄養上の問題も重要

○防犯

- 子どもや高齢者等の社会的弱者を、地域で守る体制づくりを進めることが重要である。

【各委員の意見】

- ・地域の安全のシンボルとして、交番をできる限り残すよう要請する
- ・振込み詐欺等に対する高齢者の防犯対策
- ・子どもと一人暮らし高齢者の防犯対策

○コミュニティ

- 町会や自治会の自主的な活動を支援し、地域コミュニティの機能をさらに高める取組を推進することが必要である。

【各委員の意見】

- ・下町のコミュニティを活かした取組
- ・区のコミュニティ施設においては、縦割り行政で運営されているような雰囲気を一掃し、人間性豊かな職員を配置する
- ・行政に過度に依存しないコミュニティづくり

《参考》【区政改革懇談会における主な意見】

分野	テーマ	主な意見	
産業・観光	ものづくり	「(仮)荒川パウハウス(注)」(工芸デザイン学校)の設立(区内には「荒川マイスター」をはじめとする優れた技能を持っている職人が多く、中には区外の美術大学で講師として迎えられている方もいる。そうした方々を講師として迎え学校で教べんをとってもらい、それぞれ工房を設け新しい製品をつくり、その収益で学校運営や後継者育成を図る。地域の工場との連携を図り、技術、人的交流の核となる)(瑠璃)	
		町工場再生の手立ての一つとして、「アトリエ(工房)化計画」を考える。これは高い技術を持つ職人とそのサポートをするデザイナーをつけ、そのコラボレーションの上、既存の枠組にない新しい有益な製品をつくり、新しい魅力を作り上げる。このプロジェクトは上記とも連動する(瑠璃)	
		区内学校で、伝統産業の体験授業等を取り入れる(瑠璃)	
		支援企業や個人からの融資、人的支援システムをつくる(瑠璃)	
		SOHO支援事業を展開する(地元企業・職人・デザイナーとのコラボレーションの促進)(瑠璃)	
		強みを活かした地場産業づくり(紫苑)	
		先端産業の誘致(紫苑)	
		環境を起点としたモノづくりのまちとして賑わっている(茜)	
		新しい産業や雇用を生み出す源がある(茜)	
		区内の伝統工芸が継承・保存されている(茜)	
		区外及び区民向け情報発信の強化、駅など交通結節点の公共空間の活用も含めた区外向け情報発信の強化、匠会館などの設置検討 など(山吹)	
		区産業・匠の技術などの情報発信により後継者候補の広域的誘導(二ト対策など) など(山吹)	
		商業	「(仮)荒川WALKER」」発刊などを推進(瑠璃)
			粋な商慣習を学ぶ社会人向け研修会の実施(瑠璃)
	商店等へのインターン授業、実験店舗の試みをする(瑠璃)		
	専門書の充実した大きい書店の誘致(瑠璃)		
	ニボカジ(日暮里カジュアル)の見直し(紫苑)		
	ブランド戦略機関の発足(紫苑)		
	PR戦略の徹底(紫苑)		
	人の集まるスポットがある(茜)		
	区内を散策できるように、歩道や商店街を総合的に整備(萌黄)		
	南千住のララテラスにコミュニティバスのバス停をつくる(萌黄・再)		
	観光振興	荒川区の売りとなる、よりインパクトの高い特色・特徴づくりに向け、歴史文化資源などの活用を図るとともに、対外的なPRの充実を図る(真紅)	
		日暮里駅の観光基点化(真紅)	
		下町文化と東アジア文化を体感できるまちづくり(真紅)	
		3区(荒川、文京、台東)の芸能・文化伝統を合わせた観光ルートの開発と、地域バスの連携、ミニツアーの実施(瑠璃)	
		TVドラマの撮影場所になったスポット(場所)をPRして人を呼び込む(瑠璃)	
		地元の知る人ぞ知るおいしい店などを紹介(瑠璃)	
		あらかわ遊園とその周辺を「テーマパーク化」し、都電駅～遊園の一方通行でなく、地域に回遊性を導入する。例えば、日暮里の駄菓子屋横丁のようなものをこの地域に移したり、下町グルメ(もんじゃ、お好み焼き、あんみつなど)ストリートを形成したり魅力をさらに高める(瑠璃)	
		現有施設の有効活用(あらかわ遊園など)(紫苑)	
		区外から人を呼び込むための仕掛けづくり(紫苑)	
		区外からの人を回遊させるための仕掛けづくり(紫苑)	
		人の集まるスポットがある(茜・再)	
		日暮里駅周辺の再開発事業に観光を取り込む(萌黄)	
		日暮里駅周辺に外国人向けのホテルを誘致(萌黄)	
		繊維街を活用(萌黄)	
		区内をアート回廊として整備(萌黄)	
		まちづくりの観点から観光客を受け入れる体制を整備(萌黄)	
		隅田川や都電などの観光資源としての活用を検討、史跡や文化財の整備・発掘、工芸技術など産業の観光資源としての活用検討 など(山吹)	
		駅など利用者の多い公共空間を活用したPR、区民相互の連携による資源の発掘とPR、歴史作家などを活用した区の歴史本の作成 など(山吹)	
	交通便利な地区における再開発の推進・江戸の面影を残す下町づくりと相互の調和、都電や隅田川を活かしたまちづくり など(山吹)		
その他	産業のネットワーク化(紫苑)		
	服飾系、美容・理容系の専門学校を多数誘致する(瑠璃)		

分野	テーマ	主な意見
街づくり	都市基盤整備	自転車空間のあり方を検討しつつ、人中心の道路網整備や公共交通中心の交通体系の整備が必要である（真紅）
		道路網の再構築と生活道路の歩行者優先化（真紅）
		建造物等の省エネルギー化（真紅）
		遊園から墨田川までに続く大正時代の旧レンガ工場跡地のレンガ塀の修景事業による「歴史の散歩道」としての整備（瑠璃）
		南千住地区では、汐入地区の平成の近代的な街づくりに始まり、南千住駅を経て、コソ通りを「昭和レトロなまちづくり」をコンセプトにし、千住大橋を経て、北千住の松尾芭蕉や蔵のコンセプトとリンクさせる（瑠璃）
		交通のバリアに関して、住民の投票等により早期改善する場所を決める（瑠璃）
		将来の日暮里駅近辺の発展から、その周辺地域の活性化を考え、工場跡地などの広い後背地の活用を考える（瑠璃）
		回遊を想定した交通網の再構築・体系化（紫苑）
		近隣区との連携（紫苑）
		川や川辺を活用した回遊のあり方の検討（紫苑）
		一貫した都市計画がなされている（茜）
		着実に土地区画整理事業などの都市計画を推進するとともに、道路の整備・拡幅にあたっては、地域の開発事業に合わせて実施する（萌黄）
		使い勝手の良い駐輪場（有料も可）を整備する（萌黄）
		シルバー人材センターの高齢者に放置自転車の取り締まりの権限を与える（萌黄）
		協議会を設置し、抜本的な駐輪場整備のあり方を検討する（萌黄）
		歩道の拡幅と電柱の地中化（萌黄）
		生活道路の整備（萌黄）
	ソフト（マナー）・ハード（駐輪場）の自転車対策（萌黄）	
	まちづくりの観点から観光客を受け入れる体制を整備（萌黄・再）	
	南千住のララテラスにコミュニティバスのバス停をつくる（萌黄）	
区内を散策できるように、歩道や商店街を総合的に整備（萌黄・再）		
交通利便な地区における再開発の推進・江戸の面影を残す下町づくりと相互の調和、都電や隅田川を活かしたまちづくり など（山吹・再）		
電線の地中化や狭い路地の環境整備など防災面も考慮した生活道路の整備拡充、防災都市宣言の実行とPR、安全で美しいまちづくり（まちの環境美化条例・自転車などの放置防止条例などの強化、区民の意識改革など）、住宅建設の際の緑化誘導など区内緑化の強化 など（山吹）		
住環境整備	住宅密集地域の再整備に地域住民の合意形成を図りつつ取り組んでいく必要がある（真紅）	
都心至近のベッドタウンとして新たな居住者を呼びこむとともに、従来のまちの雰囲気やイメージを残した整備や、大規模開発ゾーンと周辺ゾーンとのメリハリや調和に配慮したまちづくりが必要である（真紅）		
生活に便利なまちになっている（茜）		
その他	まちづくりルールの整備（真紅）	
教育・文化	学校教育	首都大学東京荒川キャンパス（医療・福祉学）を中心に小、中、高校の授業の一部を大学で行うプログラムをつくる（瑠璃）
		学校によい先生を誘導できる異動の仕組みを検討する（瑠璃）
		福祉体験広場（北区）や荒川自然公園、尾久の原公園、汐入公園等を使用した学外学習の実施（瑠璃）
		特徴のある学校づくり（紫苑）
		学校（校長）への経営的視点の導入（紫苑）
		教員採用基準・方法の見直し（紫苑）
		教員評価システムの導入（紫苑）
		人間としての基本的なことが学べる教育環境が整っている（茜）
		公立校の教育力が高く、越境するなら「荒川区の学校へ」と思われるようになっている（茜）
		学校（行政）と地域・保護者との間で常にコミュニケーションがとられている（茜）
		学びやすい施設環境が整っている（茜）
		教育環境の整備（萌黄）
	基礎学力の向上を目指した教育内容の充実、民間人の経験やノウハウの活用、小中学校の選択制度の強化・維持 など（山吹）	
	親・子供・教員・教育委員会と地域の連携の強化、教育現場の声が届く教育委員会の実現と学校との連携強化、登校拒否・ニート問題などの早急な対応、社会ルールを教える機会の拡大強化 など（山吹）	
	生涯学習・スポーツ	日暮里織維問屋街で、個人的に裁縫をしたいがミシンのない人や子供の入学・入園準備をひかえた父母を対象にした裁縫教室の開催（瑠璃）
	若者向け和装教室の開催（瑠璃）	
	文化振興	落語講座の開催、地元のお寺を借り怪談話の落語会等を開催（瑠璃）
	隅田川を環境文化の学習の場にし、「川の手」の文化の向上を図る（瑠璃）	
	童話（メルヘン）文学コンクール、和楽器（琴、三味線など）の定期演奏会などの関連行事の開催（瑠璃）	
「第2江戸東京たてもの園」（注）の創設（再開発等で使われなくなる伝統木造家屋（商店、銭湯、料亭、蔵）などの集合体） ※東京たてもの園：東京都墨田区のJR両国駅前にある江戸東京博物館の分館として、東京都小金井市の都立小金井公園内に設置された野外博物館である（瑠璃）		
その他	家庭教育の見直しのための地域連携の推進、保護者への教育支援（紫苑）	
地域と一体となった教育システムの導入（紫苑）		

分野	テーマ	主な意見	
子育て・健康・福祉	子育て支援	再開発で人口増加が予想される中で子育てや教育環境を充実する必要がある（真紅）	
		子育て支援所、子供の遊び場、託児、宅老所の増設（瑠璃）	
		社会全体で子どもを育てるという意識がある（茜）	
		子どもを安心して預けられる体制がある（茜）	
		子育てへの経済的な支援がある（茜）	
		子育ての情報が得やすく、「親になる」ための教育体制が整っている（茜）	
		子どもの医療体制が整っている（茜）	
		子どもがのびのび遊ぶことができる（茜）	
		経済的支援策の充実（萌黄）	
		働きやすく安心して子育てができる環境づくり（萌黄）	
	高齢者福祉	子どもの頃からの教育を充実するとともに、子どもと高齢者など、多様な交流の場をつくっていく必要がある（真紅）	
		障がい者や高齢者をはじめ、だれもがいきいきと暮らせるような地域社会づくりが必要である（真紅）	
		独居老人の安否確認体制やお年寄・障がい者情報の自治会等での共有（真紅）	
		子どもと高齢者が日常的に気軽に交流できる施設の整備（真紅）	
		町会のネットワーク、行政による一人暮らしのお年寄りの把握と声かけ活動（瑠璃）	
		寺社や銭湯の複合用途としてデイサービス化の支援をする（瑠璃）	
		商店街の空き店舗等を活用した小規模多機能な民間資本のデイケアホームの設立支援をする（瑠璃）	
		高齢者が参加できるボランティア、NPO組織の充実（紫苑）	
		高齢者の社会参加ビジネスの推進（紫苑）	
		高齢者雇用促進に向けた諸制度や基盤の充実（紫苑）	
	障害者福祉	障がい者や高齢者をはじめ、だれもがいきいきと暮らせるような地域社会づくりが必要である（真紅・再）	
		独居老人の安否確認体制やお年寄・障がい者情報の自治会等での共有（真紅・再）	
		区民の中でボランティア意識が根付いている（茜）	
		障がい児・者の家族の相談の場・機会の拡大、区民のノーマライゼーション意識の醸成、障がい児・者自身の意識改革と、特に障がい児・者福祉と直接関わりを持っていない一般区民との交流拡大 など（山吹）	
		引きこもりがちな障がい児・者の地域社会への参画、雇用機会の拡大などによる障がい児・者の自立支援 など（山吹）	
		ボランティア活動のしやすい環境づくり・拠点づくり、ボランティア活動拡大の盛り上げ、遊休施設や器具などのボランティア活動への開放 など（山吹・再）	
	環境	地球温暖化・ヒートアイランド対策	雨水を利用するシステムを導入して、かつ親水公園等に利用して子供の遊び場をつくる（瑠璃）
			屋上も含む緑化の推進（萌黄）
			雨水利用を進める（萌黄）
		資源循環型社会	大気汚染の現状の公表と国や都と連携した対策の強化、アイドリングストップ運動の推進、脱車社会の先進区としての取り組みと情報発信 など（山吹）
循環型社会への区民の意識が高くなっている（茜）			
町会単位でゴミを減量化するとともに、ゴミ箱を設置する（萌黄）			
区の助成でコンポストの設置を奨励し、ゴミの減量化と肥料などへの資源化を図る（萌黄）			
ゴミの分別を更に細分化し、ゴミを減量化する（萌黄）			
パッケージの開発や過剰包装の改善など、区が事業者に働きかける（萌黄）			
ゴミを減量化するための工夫や方法を公募する（萌黄）			
ポイント制を導入するなど地域ぐるみで牛乳パックを回収する（萌黄）			
リサイクル運動の強化推進、温暖化やダイオキシン発生原因となるプラスチック類の完全リサイクル化の推進、集団回収事業の強化・全世帯化 など（山吹）			
環境美化		きれいなまちになっている（茜）	
		街路樹を増やし魅力あるみどりの景観を形成する（萌黄）	
		定期的に剪定し、運転手からの見通しや安全を確保する（萌黄）	
		区民参加による花のあるまちづくりを進める（萌黄）	
		ゴミの収集は、できるだけ午前中に行う（萌黄）	
		美しい街並み、みどりが多くゴミのないまち（萌黄）	

分野	テーマ	主な意見
防災・防犯・コミュニティ	防犯	犯罪のない安全なまちの実現に向け、区民、学校、行政などが連携し、地域ぐるみの取組を進める必要がある（真紅）
		自治会・町会を軸とした防災・防犯コミュニティの形成（真紅）
		JR線のガード下のライトアップなど、危険を誘発する暗闇をなくす明るさ環境の整備（瑠璃）
		祖父母世代が参加する、子供の交通・防犯面の安全確保（瑠璃）
		防犯上何かあった際、かけ込める家の普及（瑠璃）
		地域コミュニティを活かした防災・防犯体制がある（茜）
		防災・防犯に関する情報が区と区民との間で共有できている（茜）
		近所とのつきあいを深める（萌黄）
		空き巣の被害にあわないよう自助努力に努める（萌黄）
		地域ぐるみで、犯罪の被害を未然に防止する対策を検討する（萌黄）
		ソフト（マナー）・ハード（駐輪場）の自転車対策（萌黄・再）
	防災	災害に強いまちの実現に向け、都市環境の改善などハード面の取り組みや、災害時の連絡や復旧体制の整備などのソフト面の取り組みを進める必要がある（真紅）
		木造密集市街地の改善（真紅）
		自治会・町会を軸とした防災・防犯コミュニティの形成（真紅・再）
		参加者が楽しめるイベントを訓練に取り入れる（真紅）
		祖父母世代が参加する、子供の交通・防犯面の安全確保（瑠璃・再）
		「荒川区おんぶ隊」の仕組みの普及（荒川区おんぶ隊：区民が登録して、災害時に1人暮らしなどの体が不自由な高齢者や障がい者をおんぶして救助する）（瑠璃）
		地域コミュニティを活かした防災・防犯体制がある（茜・再）
		防災・防犯に関する情報が区と区民との間で共有できている（茜・再）
		コミュニティFM局の開設や携帯電話を活用した新たなしくみづくり（萌黄）
		授業の中で子どもたちの防災意識を高める（萌黄）
		防災6か条（火の始末、逃げ道の確保、非常持ち出し袋の準備、家族が離ればなれになった時の話し合い、避難場所の確認、住まいの防災総点検）を作成し普及させる（萌黄）
		協議会を設置し、どこで医療が受けられるか、また、一人で避難できない人の把握方法などを検討する（萌黄）
		災害時のマンション対策を検討する（萌黄）
		万一の災害時に万全な対応ができる体制を確立する（萌黄）
	無関心な人に対していかに関心を持ってもらうか検討する（萌黄）	
	ペット用の避難場所をどうするか検討する（萌黄）	
	コミュニティ	お互いの顔が見え、地域の課題解決のために相互に支え合い協力し合えるような地域社会の実現に向け、自治会・町会活動をはじめ、各種ボランティア活動、世代間交流など、多様なコミュニティを形成していく必要がある（真紅）
		グループホームや学校などを活用した日常的な世代間交流の場づくり（真紅）
		自治会・町会情報の提供による参加者拡大（真紅）
		趣味や文化活動などを含めたテーマ型コミュニティ活動の支援（真紅）
		マンションやアパートの新しい住民を含めた町会の形成（瑠璃）
		町会を活用した行政業務のアウトソーシングの推進（紫苑）
防災・福祉等横断的に対応できる町会機能の確立（紫苑）		
気軽に近所づきあいができ、世代間の出会いの場がある（茜）		
趣味と地域活動をつなげるしくみがある（茜）		
いざというときに地域住民が協力し合う（萌黄）		
地域住民と新しい住民との交流の仕組みづくり、コミュニティに消極的な人を誘導する仕組みづくり、町内会と管理組合との連携の強化 など（山吹）		
在住外国人への長期的にやさしい対応、生活情報提供などの継続的实施など（山吹）		
ボランティア活動のしやすい環境づくり・拠点づくり、ボランティア活動拡大の盛り上げ、遊休施設や器具などのボランティア活動への開放 など（山吹）		
行財政	世代別区報の発行、区報のメールマガジン化（注）などを推進する（瑠璃）	
	区民との連携が促進されている（茜）	
	行政が区民志向で運営されている（茜）	
	区民と行政が一体となった協働まちづくりの仕組みづくり など（山吹）	
	行政計画などへの区民提言や区民主導の地域づくりを推進する仕組みづくり、区民意見の把握や反映のシステムづくり など（山吹）	
	積極的な情報公開とPRの拡充、多様な情報提供やPR手段の活用 など（山吹）	
	縦割り組織の改編 など（山吹）	
	相談室などの充実と迅速な対応 など（山吹）	
	区民の条例に対する認知度向上、条例の罰則規定の付加と遵守の徹底 など（山吹）	